

令和6年度 細谷小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

心身ともに健康で、自ら考え正しく判断し、豊かな心でたくましく生きる児童の育成

《目指す児童像》

- ・明るく思いやりのある子（豊かな心の育成） 【やさしく】
- ・健康でねばり強い子（健康・体力の向上） 【つよく】
- ・よく考え進んで学ぶ子（基礎学力の定着） 【かしこく】

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

学校教育目標の具現化に向け、児童一人一人が自分のよさや可能性を認識しながら、他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働し、持続可能な社会の創り手となる能力を育む特色ある教育活動の展開に努める。また、様々な社会の変化に適切に対応し、児童の学びを保障するとともに、安全・安心で誰からも信頼される学校を目指す。

そのために、「優しさと笑顔いっぱいの学校」を合言葉に、全教職員が教育的愛情と専門職としての自覚と使命感をもって確かな指導力を身に付け、和の信頼関係のもとで協働するとともに、家庭や地域と連携を深めながらチーム細谷としての力を高め、児童はもとより、教職員、保護者、地域住民にとって魅力のある、活気と創意に満ちた学校づくりを推進する。

チーム細谷による、優しさと笑顔がいっぱいの学校づくり

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 児童一人一人が自分のよさや可能性を認識し、自己有用感を高めながら夢や目標に向かってねばり強く努力できるよう、全ての教育活動を通して認め励ます指導を推進する。
- (2) 児童に確かな学力を身に付けるため、主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進するとともに、発達段階や個に応じたきめ細かな指導に努める。
- (3) ○児童に規範意識、思いやり、やり抜く心などのたくましさを育むため、道徳教育と関連を図りながら、地域の特色や教育的資源を活用した体験活動や交流活動を実施する。
- (4) 児童に健康で安全な生活を送ることができる資質・能力を育むため、自分の健康や体力への関心を高め、心身の健康を心がける指導や運動の日常化を促進する指導を充実する。
- (5) 学校と家庭、地域が連携を深められるよう、魅力ある学校づくり地域協議会を通した一層の地域教育力の活用や、積極的な情報発信により地域とともにある学校づくりを推進する。
- (6) 教職員が健康で生き生きと本来の職務に専念できるよう、全教職員の共通認識のもとで校務の見直し、精選、効率化を進め、学校の働き方改革を推進する。

【宝木地域学校園教育ビジョン】

「いきいき宝木」心豊かな宝木っ子の育成を目指します

～他を思いやる心や規範意識を育み、基本的生活習慣や主体的に学ぶ態度を身に付けさせる指導の工夫～

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法・教育基本法・学校教育法・同法施行規則並びに小学校学習指導要領・県教育委員会の方針・第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画並びに教育スタンダードを受け、本校の教育目標の達成を期し、令和4年度指導の重点等を踏まえるとともに、本校や地域の実情、児童の実態等を考慮しながら、「生きる力」を育む知・徳・体の調和のとれた教育課程を編成する。
- (2) 義務教育9年間における発達段階に即した指導と、地域学校園教育ビジョンの実現を図るため、地域学校園内の小中学校と連携して小中一貫した教育課程の編成に努める。
- (3) 教育活動の質の向上と発展に資するよう、学校評価をはじめとした各種評価、学力調査や質問紙調査の分析結果等を踏まえて課題を明確にし、教育課程の改善と充実を図る。
- (4) 社会に開かれた教育課程を意図し、地域社会や保護者等の願いを考慮して教育課程を編成するとともに、本校の目標や特色ある教育活動等についての発信に努める。
- (5) 学習の基盤となる資質・能力や現代的な諸課題に対応していくための資質・能力を育成することができるよう、教科横断的な視点でカリキュラム・マネジメントの充実に努める。
- (6) 感染症や災害等の緊急事態などに適切に対応しながら児童の学びを保障できるよう、GIGAスクール構想のさらなる充実に努めるとともに、指導形態や指導法を工夫する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

- ・自己有用感を高める指導を、家庭、地域と連携しながら全教育活動を通して推進する。
- ・「チーム細谷」としての力を一層高めるとともに、学校の働き方改革を推進する。
- ・GIGAスクール構想のさらなる充実に向けた取組を着実に進める。
- ・積極的な情報発信と地域教育力の活用を通して地域とともにある学校づくりを推進する。

(2) 学習指導

- ・児童一人一人が自らのよさに気付き、伸ばすことができるようにする指導の工夫
- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
- ・安心して考えを伝え合い、互いに高め合える学び合いの重視
- 基礎・基本の確実な習得を図るための、まとめの学習の充実と家庭学習の習慣化

(3) 児童生徒指導

- ・認め合い励まし合う中で、児童一人一人が自分への自信を深められる集団づくり
- ・豊かな体験活動や交流活動の重視と、それらとの関連を図った道徳科授業の充実
- ・明るいまえさつや、時と場に応じた正しい言葉遣いができるようにする指導の充実
- 規範意識や正義感を高め、基本的な生活習慣やマナーを身に付ける指導の充実
- 相手の気持ちを考え、正しく判断して行動する児童の育成（いじめを生まない指導の推進）
- ・特別な配慮を要する児童（不登校含む）の共通認識に基づく対応ときめ細かな指導

(4) 健康（体力・保健・食・安全）

- ・自分で目標を立て、達成に向けて粘り強く取り組むことができる活動の工夫
- 自分の体力について関心をもち、自ら進んで運動に取り組む指導の充実
- ・自らの健康への関心を高め、感染症の予防を含めた生活習慣を身に付ける指導の工夫
- ・望ましい食習慣を身に付けるための、給食の時間や各教科の指導の工夫と家庭との連携
- ・児童が安全を心がけ、自ら危険を予測して回避できる行動力を身に付ける指導の充実

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価								
1-（1） 確かな学力を育む教育の推進	A 1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」 ⇒児童、教職員、保護者の肯定的回答率 85%以上	1 「きらきら細谷っ子学習の約束」に基づき、話の聞き方「話す人の方に目と体を向ける」「最後まで聞く」発表の仕方「手を挙げて、ゆっくりはっきり話す」「丁寧な言葉で話す」の徹底を図る。 2 児童が意欲的に授業に取り組めるよう、導入を工夫したり、学び合いの場を設定したりするなど授業形態を工夫する。 3 授業の中に発表や話し合い活動の場を意図的に設定して、聞くこと・話すことの日常化を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr><tr><td>90.9</td><td>97.0</td><td>82.8</td><td></td></tr></table> 児童、教職員は、肯定回答が目標指数を上回ったが、保護者は目標指数を2.2ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・引き続き1～3の取組を行っていく。 ・児童が興味をもって取り組めるような課題を設定したり、学習形態を工夫したりしていく。 ・児童が考えを比較したり、深めたりすることができるよう、教師のコーディネートを工夫するとともに、児童の学びのよさをほめて伸ばすことで、主体的な学習態度を実現できるようにする。	児童	教職員	保護者	地域住民	90.9	97.0	82.8	
児童	教職員	保護者	地域住民									
90.9	97.0	82.8										

1ー(2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「児童生徒は、思いやりの心をもっている。」 ⇒児童、保護者、地域住民の肯定的回答率 85%以上	1 「きらきら細谷っ子生活の約束」に基づき、「相手の気持ちを考えて生活する」ことの徹底を図る。 2 自己有用感を高める指導を、全教育活動を通して推進する。また、「自己有用感」という言葉について家庭や地域に積極的に発信をし、家庭、地域とも連携して児童の自己有用感を高められるようにする。 3 道徳の時間や、帰りの会でのその日の振り返りなどをし、認め励まし合う中で児童一人一人が自らのよさに気づき、自信を深められるようにする。 4 心の教育（なかよし班活動、高齢者、聾学校、幼稚園との交流など）を積極的に行い、豊かな感性の醸成を図れるようにする。	B	【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr><tr><td>95.9</td><td>100</td><td>93.2</td><td>90.0</td></tr></table> 対象において、肯定回答が目標指数を達成した。 【次年度の方針】 - 引き続き 1～4 の取組を行っていく。 1 について、友達の名前の呼び方（〇〇さんと呼ぶ）とていねいな言葉遣いを学校全体で徹底していく。 2 について、教師が認め励ます言葉掛けや作品等へのコメントを記し、自尊心や自己有用感を高める。	児童	教職員	保護者	地域住民	95.9	100	93.2	90.0
	児童	教職員		保護者	地域住民							
95.9	100	93.2	90.0									
A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「児童生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童、保護者の肯定的回答率 85%以上	1 教科の学習や特別活動等の様々な場面で、児童一人一人にめあてをもたせ活動にあたらせる。活動後に振り返りを行い、それを評価したり称賛し合ったりして、最後まで頑張る態度を育てる。 2 自学ノートや漢字ノートの頑張りを掲示するなどして、学級で見える化するとともに蓄積していく。 3 目標や将来に向かうためのキャリアパスポートを活用し、家庭と連携して、目標をもって頑張る児童の育成をしていく。 4 児童の頑張っている様子を、保護者に知ってもらえるよう、各種たよりや学校ホームページ等で積極的に伝えていく。	B	【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr><tr><td>88.2</td><td>90.9</td><td>77.2</td><td></td></tr></table> 児童は、肯定回答が目標指数を上回ったが、保護者は目標指数を 7.8 ポイント下回った。 【次年度の方針】 - 保護者については目標指数を下回っているが、昨年度と同程度の結果が見られたため、引き続き 1～4 の充実を図っていく。 - 児童の頑張っている様子や学校での取組を保護者に知ってもらうために、各学年の学習や行事の様子を学校ホームページや各種たより等で発信していく。 - 細谷っ子表彰（年 2 回）を通して、目標達成に向けて努力している児童を称賛する。	児童	教職員	保護者	地域住民	88.2	90.9	77.2		
児童	教職員		保護者	地域住民								
88.2	90.9	77.2										
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】全体アンケート児童生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 ⇒児童、保護者、地域住民の肯定的回答率 85%以上	1 保健委員会からの呼び掛けや生活習慣チェック等を通して、児童が自分の健康状態に意識をもち、生活習慣（食事・運動・歯磨き・感染症の予防等）を見直していけるようにする。 2 児童の安全への意識を高めるため、多様な避難訓練を実施する。また、避難訓練の事前指導の充実を図ったり、日々の生活の中で危険を感じた経験を学級で共有したりする時間を設ける。 3 栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を目標とし、学校給食と教科等との関連を図った指導を行う。	B	【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr><tr><td>92.7</td><td>97.0</td><td>88.5</td><td>90.0</td></tr></table> 対象において、肯定回答が目標指数を達成した。 【次年度の方針】 - 引き続き、1 から 3 の取組を継続して指導していく。 - 避難訓練や給食指導をしている様子を保護者へ発信し、学校での様子を共有していく。 - 保健だより等を通して、自他の健康や安全に気を付けながら、自己管理できるよう声を掛けていく。	児童	教職員	保護者	地域住民	92.7	97.0	88.5	90.0
児童	教職員	保護者		地域住民								
92.7	97.0	88.5	90.0									

1ー(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】全体アンケート「児童生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。」 ⇒児童、教職員の肯定的回答率 85%以上	1 学校教育の様々な場面で、個人の目標だけでなく、学級や集団としての目標を設定し、みんなで協力して目標に向かって努力する経験を積み重ねられるようにする。 2 集団の目標が達成できた成功体験を数多く経験できるように、他者のために活動できる喜びを体得できる活動を意図的に設定する。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr> <tr> <td>90.7</td><td>97.0</td><td></td><td></td></tr> </table> 対象において、肯定回答が目標指数を達成した。 【次年度の方針】 ・運動会、係活動、委員会活動などの特別活動を中心に、個人のめあてや集団のめあての目標を具体的にもたせるとともに、定期的に振り返りを実施し、充実した活動につなげていく。 ・結果よりも頑張った過程を認め励まし、自己肯定感を高めていく。	児童	教職員	保護者	地域住民	90.7	97.0		
児童	教職員	保護者	地域住民								
90.7	97.0										
2ー(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】全体アンケート「児童生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒児童、教職員の肯定的回答率 85%以上	1 授業の中で、ALTと児童、担任と児童、児童同士が英語を使ってやりとりをする場面を意図的に設けるよう、担任とALTの事前打合せを行う。 2 ALTと交流できる昼休みを設けるなどして、児童とALTが会話する機会を増やし、英語を使うことを日常化する。 3 ALTによる読み語りを行ったり、学年・学級の実態に応じて、朝の時間に歌やゲームで英語に親しむ時間・コミュニケーションを図る時間など工夫したちするなど、英語に親しむことができるようにする。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr> <tr> <td>79.7</td><td>93.9</td><td></td><td></td></tr> </table> 教職員は、肯定回答が目標指数を上回ったが、児童は目標指数を5.3ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・引き続き1～3の取り組みを行っていく。 ・給食のとき英語の歌を流し、英語に親しむ機会を増やす。 ・放送委員会と協力し、世界の行事や文化について紹介していく。 ・外国語活動や外国語に関する校内研修の機会を充実させ、教師の授業力向上を図る。	児童	教職員	保護者	地域住民	79.7	93.9		
児童	教職員	保護者	地域住民								
79.7	93.9										
2ー(2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】全体アンケート「児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童、保護者の肯定的回答率 85%以上	1 生活科や社会科、総合的な学習の時間などで身近な地域や宇都宮全域に関する学習をする際に、その良さについての教材研究を十分に行う。 2 郷土に因んだ給食(宮っ子ランチや行事食)を通して、宇都宮の農産物や歴史などに触れ、郷土愛や食文化を育むようにする。 3 学校ホームページ、学級懇談会、学年だよりを通して、児童が宇都宮全域に関する学習をしている様子を紹介するなど、保護者が知る機会を設定していく。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr> <tr> <td>89.7</td><td>90.9</td><td>69.3</td><td></td></tr> </table> 児童、教職員は、肯定回答が目標指数を上回ったが、保護者は目標指数を2.2ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・引き続き1～3の取組を行っていく。 ・3については、ホームページに「宇都宮学コーナー」を作り、保護者が知る機会を増やしていく。 ・各種たより等の記事に共通タイトルの見出し「宇都宮学」を表示し、周知を図る。	児童	教職員	保護者	地域住民	89.7	90.9	69.3	
児童	教職員	保護者	地域住民								
89.7	90.9	69.3									
2ー(2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】全体アンケート「児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童、教職員の肯定的回答率 85%以上	1 GIGAスクール構想の推進に向け、各教科等で、個人用パソコンやインターネット等を効果的に活用する授業を意図的にを行い、年計に位置付ける。また、そのための研修を行う。 2 担任と図書館司書が連携して、学習に必要な本を用意したり、調べ学習の場を工夫したりして、児童の学びを深める。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr> <tr> <td>91.3</td><td>100</td><td>82.2</td><td></td></tr> </table> 対象において、肯定回答が目標指数を達成した。 【次年度の方針】 ・引き続き、1・2の取組を行っていく。 ・1については、学年で同じ程度、個人用パソコンが使えるように連携を図り、家庭学習においても学習ソフトの活用を推進していく。	児童	教職員	保護者	地域住民	91.3	100	82.2	
児童	教職員	保護者	地域住民								
91.3	100	82.2									

2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「児童生徒は、【持続可能な社会】について、関心をもっている。」 ⇒児童、教職員の肯定的回答率 80%以上	1 生活科や社会科及び総合的な学習の時間等に、水や電気、資源について学ぶ機会を通して、それらを大切する態度を育てる。 2 児童に対して、授業の内容と関連させながら「持続可能な社会」というキーワードを意図的に用いる。 3 環境美化委員会の活動で、節電・節水・リサイクルを呼びかける放送やポスター作成を行い、「持続可能な社会」について、関心を深めさせるようにする。 4 避難訓練などを通して、災害の実際や災害への備え等について身近な問題としてとらえ、対応について考えることができるようにする。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr> <tr> <td>91.7</td><td>78.8</td><td></td><td></td></tr> </table> 児童は、肯定回答が目標指数を上回ったが、教職員は目標指数を 1.2 ポイント下回った。 【次年度の方針】 - 引き続き 1～4 の取組を行っていく。 3については、SDGs に関するポスターを掲示し、「持続可能な社会」を知る機会を増やしていく。また、園芸委員会も、雨水を活用した水やりを続けていく。	児童	教職員	保護者	地域住民	91.7	78.8		
児童	教職員	保護者	地域住民								
91.7	78.8										
3-(1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答率 85%以上	1 担任は、特別な支援を必要とする児童の実態の把握に努める。 2 教育相談のみならず、日々児童と接する中で、児童一人一人のニーズや悩みを把握し、関係機関と連携を図りながら、個に応じた支援を展開する。 3 打合せでの情報交換、ケース会議や教育支援委員会を通して、教職員間での情報共有を図り、児童理解に努め、組織的に支援にあたる。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr> <tr> <td></td><td>100</td><td></td><td></td></tr> </table> 対象において、肯定回答が目標指数を達成した。 【次年度の方針】 - 引き続き 1～3 の取組を行っていく。 - 特に 2 については、教職員間での情報共有を定期的に行うことにより、児童の困り感等の早期発見と理解に努め、より一層個に応じた組織的な支援を行う。	児童	教職員	保護者	地域住民		100		
児童	教職員	保護者	地域住民								
	100										
3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケート「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」 ⇒児童、保護者、地域住民の肯定的回答率 85%以上	1 教育活動全体及びいじめゼロ強調月間（5 月・9 月）の取組を通して、児童に「いじめは決して許されない」ことを徹底指導する。 2 いじめアンケートを年間 4 回実施し、早期発見に努める。 3 道徳の時間や交流活動で学んだことが生かせるような学級経営を心掛け、児童同士の温かい人間関係を醸成する。 4 いじめに関する校長講話や学校での取組をたより等で保護者にも発信していく。 5 いじめアンケートで把握したことや児童同士のトラブル等について家庭と情報共有を行い、連携しながら児童指導に取り組む。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr> <tr> <td>96.6</td><td>100</td><td>84.6</td><td>90.0</td></tr> </table> 児童、教職員は、肯定回答が目標指数を上回ったが、保護者は目標指数を 0.4 ポイント下回った。 【次年度の方針】 - 引き続き 1～4 の取組を行っていくとともに、今後も各取組について積極的に発信し、保護者と地域の理解と協力を得ていきたい。 - いじめアンケートで把握したことや児童同士のトラブル等について、校内及び家庭と情報共有を行い、連携しながら組織的にいじめ等の問題に対応していく。 - 児童指導に関する話し合いを定期的開催し、組織的にいじめの早期発見、早期対応に努める。	児童	教職員	保護者	地域住民	96.6	100	84.6	90.0
児童	教職員	保護者	地域住民								
96.6	100	84.6	90.0								
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】全体アンケート「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。」 ⇒児童、保護者の肯定的回答率 85%以上	1 「1 日欠席で電話、2 日欠席で家庭訪問」を基本に、家庭との連絡を密にとる。 2 不登校の原因がどこにあるのか、児童と話し合う時間を十分にとることと、それを取り除く配慮に努める。 3 教室に入りにくい児童には、保健室等、教室以外の居場所を提案し、不登校にならないよう配慮する。 4 週 1 回の打合せ時に問題行動等、月 1 回の職員会議時に不登校状況等についての伝達を行い、全職員で情報を共有し、全教職員で対応にあたる。 5 新たな不登校を生まないためにも温かい学級経営に努める。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr> <tr> <td>94.3</td><td>100</td><td>90.0</td><td></td></tr> </table> 対象において、肯定回答が目標指数を達成した。 【次年度の方針】 - 引き続き 1～5 の取組を行っていく。 - 教職員、家庭、スクールカウンセラー、教育センター等の関係機関と連携し、個に応じた対応を組織的に行っていく。 - Q-U や教育相談等で気になる児童がいた場合は、職員間や家庭との情報共有を行い、不登校の予防に向けた初期対応を行う。	児童	教職員	保護者	地域住民	94.3	100	90.0	
児童	教職員	保護者	地域住民								
94.3	100	90.0									

3ー(3) 外国人児童 生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケート「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。」⇒児童、保護者、地域住民の肯定的回答率 85%以上	1 児童一人一人のよさを認め、居がいのある学級づくりに努める。 2 児童や地域の実態を踏まえて、前年度の評価結果と反省をもとに、教育課程を編成する。 3 児童が、学校行事や特色ある教育活動などに意欲的・主体的に取り組めるような場を設定する。	B	【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr><tr><td>95.9</td><td>100</td><td>89.2</td><td>100</td></tr></table> 対象において、肯定回答が目標指数を達成した。 【次年度の方針】 - 引き続き1～3の取組を行っていく。 3について、あいさつ運動や集会活動、クラブ活動や委員会活動など児童主体の活動となるよう計画・支援していく。	児童	教職員	保護者	地域住民	95.9	100	89.2	100
児童	教職員	保護者	地域住民									
95.9	100	89.2	100									
3ー(4) 多様な教育的 ニーズへの 対応の強化	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケート「教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」⇒児童、保護者の肯定的回答率 85%以上	1 基礎・基本の定着を図るために、授業のねらいを明確にし、まとめや振り返りで確認する。 2 ユニバーサルデザインに基づいた授業づくりに努める。 3 授業の最初に、その授業の流れをミニホワイトボードに示し、児童が学習の見通しをもつことができるようにする。 4 チームティーチングや少人数指導、かがやきルームでの指導を通して、児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導に努める。	B	【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr><tr><td>96.8</td><td>100</td><td>88.3</td><td></td></tr></table> 対象において、肯定回答が目標指数を達成した。 【次年度の方針】 - 引き続き1～4の取組を行っていく。 - ICTやワークシート等を活用し、分かりやすい授業づくりに努める。 - 児童一人一人の学習状況を確認し、実態に応じた指導ができるよう、教材研究に努める。	児童	教職員	保護者	地域住民	96.8	100	88.3	
児童	教職員	保護者	地域住民									
96.8	100	88.3										
4ー(2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」⇒教職員の肯定的回答率 85%以上	1 全教職員が協力し合う体制（共通理解・共通指導）で学校運営に取り組み、児童に関する話合いの場を設ける。 2 自己評価シートの作成を通して学校経営への参画意識をもち、担当校務分掌に主体的に取り組み、組織的な運営に努める。	B	【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr><tr><td></td><td>100</td><td></td><td></td></tr></table> 対象において、肯定回答が目標指数を達成した。 【次年度の方針】 - 引き続き1, 2の取組を行っていく。 - 全教職員が協力して学校経営に参画し校務に当たるなど、全校体制で組織的に運営していく。	児童	教職員	保護者	地域住民		100		
児童	教職員	保護者	地域住民									
	100											
4ー(3) 学校における 働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」⇒教職員の肯定的回答率 85%以上	1 勤務時間を意識した働き方をするよう、管理職を中心に声かけを行う。 2 ミライムの掲示板を活用した職員間の連絡や、ペーパーレス化に向けた取組を行う。 3 月1回「リフレッシュデイ」を設け、意識化を図る。 4 業務改善に向けて、行事の反省や話合いを行う。	B	【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr><tr><td></td><td>90.9</td><td></td><td></td></tr></table> 対象において、肯定回答が目標指数を達成した。 【次年度の方針】 - 引き続き1, 3, 4の取組を行っていく。 - 月に1回「定時退勤日」を設け、勤務時間の意識化を図る。 - 適正な勤務時間を守るため、電話自動音声応答等の設定時刻の見直しを図る。	児童	教職員	保護者	地域住民		90.9		
児童	教職員	保護者	地域住民									
	90.9											

5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】全体アンケート「学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」 ⇒児童、保護者、地域住民の肯定的回答率 85%以上	1 地域学校園教育ビジョンに基づき各分科会でテーマを決め、適切な活動を行う。 2 乗り入れ授業を実施し、学校園の児童・生徒の学力の向上や学校生活支援において有効に機能させる。 3 小中合同のあいさつ運動や中学生による行事への参加などを積極的に実践し、地域の活性化を図る。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr> <tr> <td>86.2</td><td>100</td><td>82.2</td><td>90.0</td></tr> </table> 児童、教職員は、肯定回答が目標指数を上回ったが、保護者は目標指数を2.8ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・引き続き1～3の取組を行っていく。 ・6年乗り入れ授業や小中合同あいさつ運動等、計画通り実施していく。 ・地域学校園の各分科会の研修内容について共有し、学習指導や生活指導に生かしていく。 ・各種たより等の記事に共通タイトルの見出し「小中一貫教育」を載せる。	児童	教職員	保護者	地域住民	86.2	100	82.2	90.0
児童	教職員	保護者	地域住民								
86.2	100	82.2	90.0								
5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進 5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 ⇒児童、保護者、地域住民の肯定的回答率 85%以上	1 地域協議会や自治会、育成会、PTA、子どもの家(アドベンチャークラブ)等との連携を進め、特色ある活動の充実を図る。 2 放課後子ども教室(スマイルほそや)との連携を図り、地域の教育力を生かした体験的な学習活動を行う。 3 地域ボランティアや地域企業等の協力を得ながら、専門的、体験的な学習活動を行う。 4 校外学習、オープンスクール、交流学习、ふれあい活動など、諸活動に参観や参加できる機会を多く設け、家庭・地域・企業等との連携を深める。 5 児童の教育活動の支援となるよう、学校支援ボランティアを募集・活用していく。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr> <tr> <td>91.3</td><td>97.0</td><td>90.5</td><td>90.9</td></tr> </table> 対象において、肯定回答が目標指数を達成した。 【次年度の方針】 ・引き続き、地域や関係機関との連携を図り、活動を充実させていく。 ・これらの活動を学校だよりやホームページ等で紹介し、保護者や地域へ情報を発信していく。	児童	教職員	保護者	地域住民	91.3	97.0	90.5	90.9
児童	教職員	保護者	地域住民								
91.3	97.0	90.5	90.9								
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒保護者、地域住民の肯定的回答率 85%以上	1 安全点検や日常の観察を通して、施設・設備の安全管理に努める。 2 さくら連絡網を活用し、児童の安全確保に努める。 3 緊急避難時に備え、非常階段や防火扉周辺を整理したり、災害備蓄品の管理を徹底したりする。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr> <tr> <td></td><td>100</td><td>93.0</td><td>100</td></tr> </table> 対象において、肯定回答が目標指数を達成した。 【次年度の方針】 ・引き続き、1から3の取組を継続して指導していく。 ・安全点検の実施状況を保護者へ発信する。	児童	教職員	保護者	地域住民		100	93.0	100
児童	教職員	保護者	地域住民								
	100	93.0	100								
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業(授業準備も含む)を行うための準備ができている。 【数値指標】全体アンケート「コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業(授業準備も含む)を行うための準備ができている。」 ⇒教職員の肯定的回答率 85%以上	1 ICT機器の効果的な活用に努めるとともに、校内研修を通して教職員の指導力向上を図る。 2 学校ホームページやさくら連絡網を有効活用し、学校情報の提供をデジタル化し、業務改善を図る。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr> <tr> <td></td><td>100</td><td></td><td></td></tr> </table> 対象において、肯定回答が目標指数を達成した。 【次年度の方針】 ・引き続き1・2の取組を行っていく。 ・特に1については、ICTに関わる情報と活用方法を適時、校内掲示板や校内研修等で広く周知していく。 ・来年度も、さくら連絡網を適切な活用に努める。	児童	教職員	保護者	地域住民		100		
児童	教職員	保護者	地域住民								
	100										

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】全体アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒児童、保護者、地域住民の肯定的回答率 85%以上	1 教師自らが児童に明るいあいさつの範を示し、よくあいさつのできる児童について折に触れて称賛する。 2 児童会中心のあいさつ運動を実施したり、登校班長会議で班長にあいさつ励行を呼びかけたりし、あいさつの習慣化を図る。 3 <u>地域学校園での合同あいさつ運動を実施し、あいさつをする気運を高める。</u>	B	【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr><tr><td>92.9</td><td>97.0</td><td>83.8</td><td>90.9</td></tr></table> 児童、教職員は、肯定回答が目標指数を上回ったが、保護者は目標指数を 1.2 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・保護者については目標指数を下回っているが、昨年度と同程度の結果が見られたため、引き続き 1～3 の充実を図っていく。 ・あいさつの大切さや意義について、児童に指導し、時と場に応じたあいさつができるようにしていく。 ・あいさつ運動の実践について、学校ホームページや学校だより等で発信していく。 ・学校園の合同あいさつ運動や、月 1 回のあいさつ運動の充実「細谷小あいさつの日」の設定を通して、あいさつの定着を図っていく。	児童	教職員	保護者	地域住民	92.9	97.0	83.8	90.9
	児童	教職員	保護者	地域住民								
	92.9	97.0	83.8	90.9								
B 2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童、保護者、地域住民の肯定的回答率 85%以上	1 「きらきら細谷っ子生活の約束」が日常的に守れるように、毎月の生活目標を設定し、各学級の朝や帰りの会などで振り返りを行う。また、巡回指導を行い継続的に指導していく。 2 児童会を中心に児童主体できまりを決め、児童から児童へきまりを守る大切さを伝える取組を行う。 3 道徳の授業内容を充実させるとともに、ルールやきまりを守ることの大切さや必要性を、具体的な場面の中で指導する。また、児童会を中心として児童からもルールやきまりを守ることの大切さを発信できるように支援していく。 4 児童の実態把握に努め、校内外の児童の様子について全職員で共有するなど、全校体制による指導の充実を図る。	B	【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr><tr><td>93.4</td><td>84.8</td><td>91.5</td><td>100</td></tr></table> 対象において、肯定回答が目標指数を達成した。 【次年度の方針】 ・引き続き 1～4 の取組を行っていく。 ・「きらきら細谷っ子生活の約束」に基づいた指導を全教職員が行い、全校体制で時間や持ち物等のきまりを守るようにしていく。 ・児童の実態に応じて、「きらきら細谷っ子生活の約束」の見直しと改善を行う。	児童	教職員	保護者	地域住民	93.4	84.8	91.5	100	
児童	教職員	保護者	地域住民									
93.4	84.8	91.5	100									
B 3 児童は、音読・漢字・計算の基礎的な学力が身に付いている。 【数値指標】全体アンケート「児童は、音読・漢字・計算の基礎的な学力が身に付いている。」 ⇒児童、教職員、保護者の肯定的回答率 85%以上	1 朝の学習を利用した計算練習、漢字・計算オリンピックの実施（年 2 回）宮っ子学力ステップアップシート等を活用し、一人一人の学力の向上を図る。 2 家庭学習についても教師間で共通理解を図り、児童や保護者に対しては、「学習の仕方」「家庭学習の大切さ」などを知らせ、家庭学習の充実を図る。 3 長期休業明けに家庭学習定着の強化を図り、家庭学習の進め方や生活リズムを整えて学ぶ雰囲気づくりを促す。	B	【達成状況】 <table><tr><th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr><tr><td>88.4</td><td>78.8</td><td>84.5</td><td></td></tr></table> 児童は、肯定回答が目標指数を上回ったが、教職員が目標指数を 6.2 ポイント、保護者が目標指数を 0.5 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・引き続き 1～3 の取組を行っていく。 ・「家庭学習の手引き」を基に、家庭学習の仕方についての教師間の共通理解を図るとともに、懇談会等で家庭学習の大切さなどを話題にし、家庭とも連携を図っていく。	児童	教職員	保護者	地域住民	88.4	78.8	84.5		
児童	教職員	保護者	地域住民									
88.4	78.8	84.5										

	B 4 児童は、授業や休み時間など自分から進んで運動に取り組んでいる。 【数値指数】全体アンケート「児童は、授業や休み時間など自分から進んで運動に取り組んでいる。」 ⇒児童、教職員、保護者の肯定的回答率 85%以上	1 運動への意欲を高め、めあてをもって自己の体力向上を目指せるように、学習カードやがんばりカードを活用し、日々運動に取り組めるような手立てを講じるとともに、努力の成果を称賛し、運動への意欲を高める。 2 業間にスポーツタイムを取り入れ、基礎体力の向上を図る。 3 長期休業中には、「元気っ子チャレンジカード」等を配付し、継続的に家庭で進んで運動に取り組めるようにする。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr> <tr> <td>79.3</td><td>93.9</td><td>53.8</td><td></td></tr> </table> 教職員は、肯定回答が目標指数を上回ったが、児童が目標指数を 5.7 ポイント、保護者が目標指数を 31.2 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・運動委員会の児童とともに、休み時間の遊び方や家での遊び方の紹介を実施する。 ・スポーツタイムの様子等を学校ホームページで家庭に周知する。	児童	教職員	保護者	地域住民	79.3	93.9	53.8	
児童	教職員	保護者	地域住民								
79.3	93.9	53.8									
	B 5 児童は、進んで読書に取り組んでいる。 【数値指数】全体アンケート「児童は、進んで読書に取り組んでいる。」 ⇒児童、教職員、保護者の肯定的回答率 85%以上	1 朝の読書の時間や、学校支援ボランティア「コスモス会」による読み語り、「家読」の奨励等、本に親しむ機会を設定し、児童の読書に対する興味関心を高める。 2 図書委員会等による読書週間でのイベント等を通して、豊かな感性を育む読書活動の推進に努める。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr> <tr> <td>72.2</td><td>97.0</td><td>38.9</td><td></td></tr> </table> 教職員は、肯定回答が目標指数を上回ったが、児童が目標指数を 12.8 ポイント、保護者が目標指数を 46.1 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・引き続き 1・2 の取組を行っていく。 ・1 については、児童の普段の読書の様子が保護者にも伝わるよう、図書だよりや学年だより等で紹介するとともに、「家読」の啓発に努める。 ・2 については、ブックトークで様々な本を紹介したり、読書週間を通して様々な本に触れる機会を設けたりして、読書活動の推進に努める。	児童	教職員	保護者	地域住民	72.2	97.0	38.9	
児童	教職員	保護者	地域住民								
72.2	97.0	38.9									
	B 6 児童は、学習や仕事を通して、自己有用感を感じ、自己肯定感を高めている。 【数値指数】全体アンケート「児童は、学習や仕事を通して、自己有用感を感じ、自己肯定感を高めている。」 ⇒児童、教職員の肯定的回答率 85%以上	1 学習や仕事において、一人一人に活躍の場を与えてやり遂げさせ、達成感を味わわせる。 2 児童同士が認め合う場を意図的に設定し、人間関係づくりに努める。	【達成状況】 <table border="1"> <tr> <th>児童</th><th>教職員</th><th>保護者</th><th>地域住民</th></tr> <tr> <td>81.1</td><td>100</td><td></td><td></td></tr> </table> 教職員は、肯定回答が目標指数を上回ったが、児童は目標指数を 3.9 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・「ホッとほそやっこコーナー」や帰りの会での認め合う場を設定することで、自分や友達のよいところに気付けるようにする。 ・児童のよさやがんばりが見られた際には、積極的に学級に広めていく。 ・縦割り班での清掃や遊び、クラブ活動など、異学年交流活動を通して、活躍の場を与え、達成感を味わえるよう支援していく。	児童	教職員	保護者	地域住民	81.1	100		
児童	教職員	保護者	地域住民								
81.1	100										

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

1 目指す児童の姿

【数値指標の達成状況】

- ・質問 9 項目中、4 項目で数値指標を達成した。
- ・数値指標を達成していない 5 項目は、「確かな学力」「豊かな心」「グローバル社会」「郷土愛」「持続可能な社会」である。

【考察及び今後の方向性】

- ・確かな学力を身に付けるさせるために、児童が興味をもって取り組めるような課題を設定したり、学習形態を工夫したりしていく。
- ・目標に向かって粘り強く取り組むこと態度を育むために、児童の努力や成長が分かるカードなどを活用したり、夢に向かう生き方から学ぶ機会を設けたりして、手立ての充実を図る。

2 目指す学校の姿

【数値指標の達成状況】

- ・質問 1 1 項目中、9 項目で数値指標を達成した。
- ・数値指標を達成していない 2 項目は、「いじめ対策」「小中一貫教育」である。

【考察及び今後の方向性】

- ・「分かる授業への取組」について、児童一人一人へのきめ細かな指導を行うため、研修を積極的に行い教材研究に努めてきた。また、基礎基本の定着を図るため、授業のねらいを明確にし、まとめや振り返りで習熟度を確認するなど、授業内容の充実を図ったことで、児童の学習内容への理解が深まったと考える。
- ・集団の中で自分の役割を果たし、周りの人から認められるような活動を行っていくことを通して、児童の自己有用感を育てていく。また、学校行事や学級での活動の中で、前述した取組を意図的・計画的に実践することで、児童の活気と居がい感をさらに高めていく。
- ・「いじめ対策」として、いじめアンケートで把握したことや児童同士のトラブル等について、校内及び家庭と情報共有を行い、連携しながら組織的にいじめ等の問題に対応していく。
- ・「小中一貫教育の取組」について、乗り入れ授業や小中あいさつ運動、進学先中学校訪問等の取組を通じて、児童生徒間の情報交換を密に行う。ホームページや学校だよりを通して、活動を報告し周知を図る。

3 学校独自の質問事項

【数値指標の達成状況】

- ・質問 6 項目中、1 項目で数値指標を達成した。
- ・数値指標を達成していない 4 項目は、「あいさつ」「基礎的な学力」「運動への取組」「読書活動」「自己有用感」である。
- 「あいさつ」について、あいさつの大切さや意義について指導し、時と場に応じたあいさつができるようにしていく。また、学校園の合同あいさつ運動や月 1 回のあいさつ運動の充実「細谷小あいさつの日」の設定を通して、あいさつの定着を進める。
- ・「基礎的な学力」について、家庭学習の仕方について教職員間の共通理解を図るとともに、懇談会等での家庭学習の大切さなどを話題にし、家庭とも連携を図っていく。
- ・「運動への取組」について、学習カードやがんばりカードを活用し、日々の運動に取り組めるような手立てを講じる。また、業間にスポーツタイムを行い、みんなで運動することの楽しさを味わわせる。
- ・「読書活動」について、ブックトークで様々な本を紹介したり、読書週間を通して様々な本に触れる機会を設けたりして、読書活動の推進に努める。
- ・「自己有用感」について、「ホッとほそやっこコーナー」や帰りの会での認め合う場や異学年交流活動における活躍の場を設定することで、自分や友達のよいところに気付けるようにしたり、児童のよさががんばりが見られた際には、積極的に学級に広めていったりする。

7 学校関係者評価

- ・学校経営について、教職員全員が一つとなって児童一人一人の指導にあたっている。
- ・A I 関連の世の中の進歩の驚きのスピードと昔ながらのゆったりと進む日々の生活の間には、大きな落差があり、それが広がってきている。児童の感性も大いに影響を受けていて、多様な感覚、ずれを感じやすいところが生まれ、コントロールが難しくなってきているので、急な改善は避け、ゆるかやかに改善を図っていくべきである。
- ・子育てについては、親学が必要である。小中一貫教育においては、小中の保護者の交流の場を設けるとよいのではないかな。
- ・10 年ほど、旗当番をやっているが、最初の頃より、ずっと挨拶をする子が増えたと感じる。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

- ・児童一人一人がやる気と自己有用感をもてるように、一人一人を大切にしながら、認め合う集団を育てる指導を粘り強く行っていく。
- ・「チーム細谷」として、学校経営に積極的に参画する教職員を育てることで、教職員の組織力を高め、活気あふれる学校づくりを目指す。
- ・保護者、地域の声に誠意をもって対応し、教育活動の具体的な取組や成果の見える化を図るなど、信頼関係の構築を目指す。

【学習指導】

- ・児童の学力、学習意欲の向上のため、課題を明確にし学び合い活動を取り入れるなど、主体的、対話的な学習を意識した分かりやすい授業を行う。

【児童生徒指導】

- ・「きらきら細谷っ子 生活のやくそく」を活用し、全校体制で共通理解を図り、同一の指導を継続的に行っていく。
- 中学校と連携し、あいさつ運動を展開するとともに、児童が主体的にあいさつできるような指導の工夫をする。また校内だけでなく、保護者・地域と連携し、あいさつの励行を推進していく。

- ・お互いのよさを認め合う活動や機会を設定し、認められることの喜びや誰かの役に立つ喜びを実感できる指導を行っていく。
 - ・児童が目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組めるようになるよう、様々な体験活動を通して指導していく。
- 【健康（保健安全・食育）・体力】
- ・児童が、健康で安全に過ごせるよう、手洗い、換気などの感染症対策を引き続き行う。また、交通ルールやマナーを守る態度を家庭や地域の協力を得ながら育てる。
 - ・児童の体力向上、運動習慣の定着に向け、自分の取組の伸びが分かるカード等を活用して粘り強く取り組む態度を育てる。
 - ・日常の食事に興味、関心をもち、マナーを守り楽しく食事をするのが心身の健康につながることを指導する。